

満委員長に感謝の意を表します。今教区会で諸事情により、教区の諸役員を退かれますが、この十五年間、財政委員長、常置委員として大変なお働きを頂きました。橋口兄は、教区の財政を考える時、宣教と共に考えなければならぬ、ということと教区の宣教委員会と財政委員会の合同の会議も指導していただきました。その集大成の報告が、報告書の七十頁からあります。二回の財政委員会が開催され、その両方に私も出席させて頂きました。この後の報告で、詳しく説明して下さると思います。が、その中の七十一頁をご覧下さい。一番下の「3月約献金の実施調査(サンプル調査)を受けて」とあります。財政委員会、財政委員所属の教会で月約献金の年代別、男女別、献金額別の実態についてのサンプル調査をしていただいて、現状

を示して下さっています。

#### (現状)

①教会財政を支えているのは、七十代、八十代の信徒である。  
②十年前の教会財政を支えていた中心は六十代であったが、現在の六十代はその中心になっていない。  
③若い世代では、四十代の人数が五十代の人数を上回っている。

そこから、今後の方針として、教会財政を支える次の世代の意識改革、と次々世代(青年、中学生、小学生等)の教育の充実、また教区、各教会の遊休資産の活用などが指摘されています。ここに示されている意見を踏まえ、現状の更なる分析と宣教の具体的方策に来年度は力を注いで参ります。

導を行いました。教区財務部から適切な会計処理の指針を出す準備をしています。各教会、各伝道区で会計監査の徹底をお願いします。先ほども協働体制の確立と申しましたが、限られた方に責任を負わせるのではなく、教会内・伝道区内でも複数の働き人による協力体制を築いていただきたいと思えます。来年度は、教区を健全に運営していく体制づくりを具体的に考えたいと思えます。

#### 「来年に向けて」

協働できる体制をつくるにあたっては、まずそれぞれが整えられることが必要です。今年、ウイリアムス神学館の館長黒田裕司祭をお迎えして岡山で二回の信徒セミナーを行い信徒奉仕職の学びを行いました。私は今年二月に英国のカンタベリーの新任主教研修に行きました。主教の役割

は、復活されたイエス様が「あなたがたは行って、すべての民を私の弟子にしなさい。(マタイ二八・十九)」と

言われましたが、信徒のみならずイエス様の弟子になつていただくことです。イエス様の弟子として何が求められているのか、考えていく必要があります。教区として、各教会としてどう展開していくのか。未だ、明確な方向は打ち出せていませんが、まず皆さん一人一人に、私はどういう弟子になることをイエス様が期待されているのだろう、ということから考え始めていただきたいと思えます。

それを考える時のヒントは、私たち聖公会が大切にしてきた祈禱書に示されています。祈禱書の二五八頁から始まる教会問答です。そこには、「信徒は皆これ(教会問答)をよく身に付け、またこれを人々に伝えることが大切である。」と説明されています。この教会問答を各教会で学び直して頂きたいと考えます。聖パウロはフィリピ書の中で「わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています(三・七・八)」と語っています。強いられずするのでなく、イエス様のすばらしさを再発見しながら、私はどんなイエス様の弟子になつていくべきなのかを考えながら一年を過ごして頂きたいと思えます。最後にになりましたが、この一年間で、高齢者の方々の訪問を十七日、二十八名、行えました。また、堅信式を十四回、二十九名の方に、行えたことを、感謝をもってご報告させて頂きます。